

平成 29 年度事業の報告

1 地域学習会「しまつのこころ楽考（がっこう）」

食品ロスの削減をはじめとしたごみ減量への理解と実践を呼び掛ける啓発活動の一環として、

「ごみ減量について楽しく考えよう」をコンセプトに平成 29 年 6 月から開始した。

＜平成 30 年 1 月末現在 255 回実施＞



2 フードバンク等活動支援助成制度

フードバンク活動をはじめとした食品ロス削減の取組を支援するとともに、それらの取組を行う団体に対する市民、事業者の皆様の認知度向上や食品ロス削減に向けた機運の醸成を目的として、「京都市フードバンク等活動支援助成制度」（上限 50 万円，1 / 2 助成）を創設した。

＜交付対象団体（平成 30 年 2 月末現在）＞

- ・ 特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
- ・ フードバンク京都
- ・ 特定非営利活動法人セカンドハーベスト京都
- ・ 京都生活協同組合

3 販売期限の延長による食品ロス削減効果に関する調査・社会実験について

→ 【資料 6 - 1， 6 - 2】 参照

4 2Rの取組の実践によるごみ減量効果の検証調査

平成 28 年度に引き続き、次の取組による食品ロス削減効果の検証調査を行う。

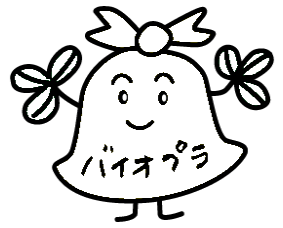
- ・ 宴会での 30・10（サーティ・テン）運動の実施（平成 28 年度から継続）
- ・ 修学旅行夕食における、声掛けの実施
- ・ 食品スーパーにおける見切り商品購入促進（POP の掲示等）（平成 28 年度から継続）

現在、結果の取りまとめ中のため、今後、循環型社会・ごみ半減をめざす 条例・プラン推進部会及び廃棄物減量等推進審議会において報告する。

5 バイオマスポリエチレンを活用した有料指定袋製造の本格実施

バイオマスポリエチレン（サトウキビの非可食部等から生成）を使用する取組を試行実施し、CO₂削減に効果が認められること、強度等の品質に問題が無いことが確認できたため、全種類の有料指定袋に拡大、本格実施を行う。

- ・平成30年7月以降、順次、販売開始
- ・バイオマスポリエチレンの混合率10%
- ・実施による年間CO₂排出量の削減効果（試算）約500トン



6 小型家電リサイクル資源の活用～京都マラソン金メダル制作から文化財の保全・再生へ～

小型家電リサイクルにより回収した「金」を100%使用して、京都マラソン2018大会の金メダルを作成し、優勝者に贈呈した。（平成30年2月18日）本取組の効果により、前年度比+20%の回収量増加につながっている。

＜回収量：H28年度 148トン，H29年度 180トン（見込）＞

今後、祇園祭山鉾の金工品（金装飾品）等の文化財の保全・再生に活用する予定である。



7 環境にやさしい「京都エコ修学旅行」

28年度の実践に引き続き、修学旅行で本市に宿泊する学校を対象に、

- ①歯ブラシの持参
- ②エコバッグを携帯し、レジ袋や紙袋を辞退
- ③食事はできるだけ食べきり

の3つの取組を実践していただく学校を募集し、エコバッグを配布している。

29年度は、新たに学校独自のアイデアでエコな取組を実施する「エコ・アクション+1（プラスワン）」も合わせて募集したところ、38校からエコな取組についての実施報告が寄せられ、清掃活動やごみの分別、旅行のしおりのペーパーレス化などを実践した6校を優秀賞に選定し、表彰した。

<参加実績（平成29年度）>

参加校の 属性	参加校数 (昨年度)	エコ・アクション+1 参加校	エコバッグ配布枚数 (昨年度)
小学校	148校 (166校)	19校	9,905枚 (11,968枚)
中学校	82校 (68校)	18校	9,753枚 (7,699枚)
高等学校	3校 (2校)	1校	408枚 (376枚)
特別支援学校	0校 (1校)	0校	0枚 (13枚)
計	233校 (237校)	38校	20,066枚 (20,056枚)

8 ごみ減量緊急対策

ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」の施行から1年半が経過した今年度になり、ごみ減量ペースが大幅にダウンしたことを受け、29年10月～11月には緊急対策として、以下の取組を実施した。

(1) 早朝のごみ排出定点等における啓発・指導

実績：各回56名が啓発・指導に従事（延べ448名）

定点及びチラシ配布数：1,837定点, 11,222枚

(2) 排出事業者への指導強化

実績：144事業者を訪問指導

(3) 持込ごみの指導強化

実績：9回（平成28年度：2回）

(4) マンションへの分別指導の強化

実績：対象となる29棟全ての管理組合に、コミュニティ回収勧奨を実施

(5) 市民しんぶん区版挟み込みなど周知・広報の強化・徹底

実績：市民しんぶん区版挟み込み（区版10月15日号）や排出事業者への広報誌「ごみゆにけーしょん」（11月発行の30号）によりごみ減量の行動・実践につながる取組周知を実施。各まち美化事務所を中心に周知・啓発を実施。



食品ロス減へ

京都市、スーパー5店で

販売延長実験

また食べられるのに廃棄されてしまう「食品ロス」。その量を削減しようと、賞味・消費期限が迫った食品を店頭で並べる期間を延長し、売れ行きの変化などを調べる実験が京都市内のスーパーで行われている。実施する同市には、2016年度に市内で廃棄された食べ残しや手つかずの食品は約6・4万ト。市は来春にも結果を公表し、消費者と企業の意識を高めるための新たな対策につなげる考えだ。

（井田祥太郎）



農林水産省によると、賞味期限は「品質が変わらずにおいしく食べられる期限」を示し、経過してもすぐ食べられなくなるわけではない。これに対し、消費期限は「安全に食べられる期限」で、弁当やケーキなど傷みやすい食品に表示されるため、同省は期限が過ぎたら食べないことを推奨している。

今月1日から「イズミヤ」

食品ロスのアンケート

に答える買い物客

（右、右京区）

販売期限延長の実験を行う店舗

店舗	品目	実施期間
イズミヤ高野店(左京区)	牛乳、ヨーグルト、洋生菓子、かまぼこ、豆腐、納豆、あげ、がんも、ちくわ、プリン、ゼリー、嗜好デザート、オードブル、天ぷら、こんにゃく	12月3日まで
カナート洛北(左京区)		
デリーカナートイズミヤ桂坂店(西京区)		
アルプラザ醍醐(伏見区)	食パン、豆腐、納豆、あげ	11月30日まで
フレンドマート梅津店(右京区)		

「平和堂」が運営する市内のスーパー計5店で実施。イズミヤは牛乳、ヨーグルト、豆腐など14品目、平和堂は食パン、納豆など4品目を対象としている。通常は賞味・消費期限の1〜2日前までに設定している販売期限を1日延ばし、廃棄量を実験前と比較する。実験は約1か月間。期間

豆腐や食パン 賞味・消費期限まで店頭

中に対象商品を購入した買い物客約300人にアンケートを行い、賞味期限と消費期限の違いや食品ロスに対する意識などについて尋ねる。このほか、市内の小売業約60社を対象に、販売期限の設定方法や考え方についてアンケート調査する。

「フレンドマート梅津店」（右京区）では、食パンなど4品目で実施。通常は賞味・消費期限のそれぞれ1日前までに売れなければ廃棄していたが、期間中は期限当日でも店頭で並べている。店長の林泰彦さん(45)は「期限ギリギリの商品を置いておくと客はどういう反応をされるか心配だったが、おおむね受け入れられているようだ」と語る。

市によると、市民1人当たりでは毎日1・9割の食品を廃棄している計算で、ほぼ茶わん1杯分に相当する量だ。担当者は「鮮度重視の消費者ばかりではないはず。買い物売り手の意識のギャップを検証し、改善策を考える材料にした」と話す。



ごみ袋 地球にやさしく

バイオマス 京都市7月本格採用の植物由来のバイオマスポリエチレン製の10リットルの指定ごみ袋が、省資源効果があるとして、

バイオマスは動物植物から生み出された有機物を微生物によって分解・発酵させ、植物由来のバイオマスポリエチレン製の10リットルの指定ごみ袋が、省資源効果があるとして、

京都市は、バイオマス由来の指定ごみ袋の導入を推進し、環境負荷の低減を図る。バイオマス由来の指定ごみ袋は、従来の指定ごみ袋と比べて、CO2削減効果が約3割ある。また、バイオマス由来の指定ごみ袋は、燃やしたときにCO2を吸収している。

平成30年1月21日
毎日新聞（朝刊）

植物由来素材

バイオマス原料を配合した家庭ごみの有料指定袋(左)、従来の袋(右)と異なり、温室効果ガス排出削減につながることを伝える文面と新PRキャラクターを加えた



指定ごみ袋に

京都市は今夏から、市民生活に欠かせない家庭ごみの有料指定袋を、サトウキビ由来のバイオマス原料を1割配合した素材に切り替える。温室効果ガスの排出量で年間約500トンの削減を見込む。販売価格は据え置く方針。

有料指定袋は、燃やすごみ用が45、30、20、10、5リットルの5種、資源ごみ用が45、30、20、10リットルの4種。2018年度分は約8千万枚を業者に発注予定で、7月以降、店頭に並ぶ見通し。

現在は石油由来のポリエチレン製で、燃やすと温室効果ガスの二酸化炭素(CO2)が発生する。一方、サトウキビなどの植物は成長時にCO2を吸収している

京都市 今夏から販売 ^{1/2}削減(9)

CO2年間500トン削減

新たな指定袋に配合する素材は、バイオマスポリエチレンで、フッ素系サトウキビを加工した時に出る廃液をかすから精製する。袋の製造量は3割ほど上がるが、為替や入札を通じてほぼ同額と抑えるという。

市によると、品質検査で色合いや強度に問題はなく、昨夏から実施した試験販売で市民や販売店からの苦情もほぼなかったという。市は、資源循環推進課は品質や価格の維持を前提に、将来、バイオマス由来原料の配合比率を増やせるかどうかを検討しているという。(田中正徳)

平成30年3月2日
京都新聞（夕刊）



リサイクルの金を使って初めて制作された金メダル

金メダルエコな輝き

家電リサイクルで制作 (4)

優勝者に贈られる金メダルは小型家電からリサイクルした金で制作した。7回を迎える今大会初の試みとなり、京都市内で回収された家電から抽出した金を使った制作作業を昨春から進めてきた。男女の1位と車いす優勝者の3人分、計3個を制作した。このほど完成したメダルは、リサイクルの金とは全く分らない美しい仕上がり。直径70mmで重さは約200g。純度の高い24金という。落ちついた金色の輝きを放っている。デザインは今大会のロゴマークを全面に大きくあしらっている。首に掲げるひもの部分はカラフルな京くみひもを使用。緑、赤、黄色の3色で鮮やかな仕上がり。

平成30年1月18日
京都新聞 (朝刊)

リサイクルの金で 祇園祭山鉾を修復

多不登也

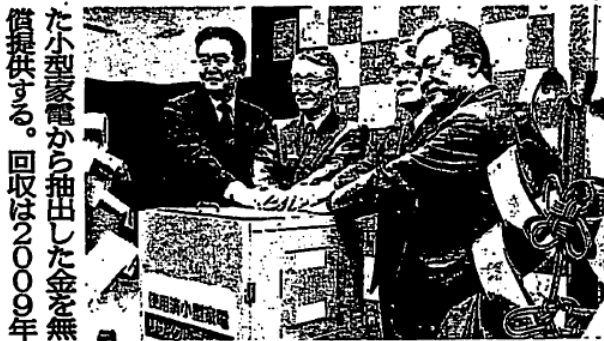
山鉾は、屋根や柱、飾り金具などに金が多用されているが、素材価格の高さが修復・新調の負担になっているため、回収し

2弾。山鉾は、屋根や柱、飾り金具などに金が多用されているが、素材価格の高さが修復・新調の負担になっているため、回収し

京都市と祇園祭山鉾連合会などは8日、こみとして捨てられた小型家電から金を取り出し、祇園祭山鉾の金工品や懸垂品の再生に活用するための協定を結んだ。今夏から対象の山鉾を検討する予定で、数年後には廃家電の金が山鉾を彩る。

小型家電抽出で4者協定

祇園祭の山鉾の修復・新調にリサイクル金を活用するために協定を結ぶ京都市など4者の代表たち(同市中央区市役所)



た小型家電から抽出した金を無償提供する。回収は2009年

に始め、17年度に回収した家電は過去最多となる約180トンで、金約100gを抽出できる見込み。

同連合会の岸本百博理事長は「祇園祭を長く続けていく上でありがたい話だ。リサイクル金をできるだけ限りの修復・新調を進めたい」と話し、14年に再建したばかりの大船鉾や、現在は「休山」で復興を目指す鷹山などへの活用も検討するとした。京都市の市役所で式典があり、純度の高い金を取り出す技術を持つアステック入江(北九州市)、メッキ加工を研究開発している市産業技術研究所(下京区)を含む4者で協定を交わした。(日山正紀)

平成30年2月9日
京都新聞 (朝刊)



修学旅行中に、
エコな活動に取り組んでい
ただきました！

平成30年3月14日
京都市環境政策局

担当：循環型社会推進部ごみ減量推進課
電話：213-4930

環境にやさしい「京都エコ修学旅行」 新企画 「エコ・アクション+1」の受賞校が決定しました！

京都市では、2Rの取組を全国に発信し、観光関連のごみ減量につなげるため、修学旅行時の①歯ブラシ持参②エコバッグの携帯③食事の食べキリの3つの取組の実施を宣言していただいた学校に、エコバッグを提供（年間予定数2万枚）する環境にやさしい「京都エコ修学旅行」を平成28年度から実施しています。

平成29年度も233校（高校3校，中学校82校，小学校148校）に御参加いただき、12月下旬にはエコバッグの提供数が予定数に達するなど、大変好評いただいております。

今年度から、優れた独自のエコな取組を実施した学校を表彰する「エコ・アクション+1（プラスワン）」について募集を行ったところ、修学旅行中のごみの分別や清掃活動（観光地等でのごみ拾いなど）、マイボトル持参、節電・節水など、38校から応募がありました。

この度、これらの中から優れた取組を実施された6校（高校1校，中学校3校，小学校2校）を、優秀賞に選定しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1 受賞校

青森県立むつ工業高等学校（青森県）

鹿沼市立粟野^{あわの}中学校（栃木県）

福岡市立城西^{じょうせい}中学校（福岡県）

田川市立田川^{たがわ たがわ}中学校（福岡県）

岡崎市立山^{やまなか}中小学校（愛知県）

刈谷市立住吉^{すみよし}小学校（愛知県）

2 表彰について

受賞校には、表彰状（みやこ柚木木製銘板）と記念品（書籍2万円分）を贈呈します。

3 応募の状況等

（1）募集期間（実施報告書の提出期間）

平成29年9月から平成30年1月まで

(2) 応募総数

38校（高校1校，中学校18校，小学校19校）

(3) 受賞校の選定

修学旅行中の取組の内容に加え，取組の決定や情報発信に生徒・児童の主体的な関わりが見られる6校を受賞校に選定しました。

【受賞校6校の取組概要】

青森県立むつ工業高等学校（青森県）		参加生徒数139名
<p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none">・マイ箸持参・マイ箸の使用により不要となった割り箸の返還式の実施・旅行のしおりPDF化による紙ごみ削減	 <p>旅館への割り箸返還式</p>   <p>旅行のしおりPDF化</p>	
鹿沼市立栗野中学校（栃木県）		参加生徒数79名
  <p>ごみの分別，清掃活動</p>  <p>取組内容の発信</p>	<p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none">・ごみの分別（宿泊施設，新幹線内），ペットボトルキャップの持ち帰り・宿泊先，周辺道路での清掃活動・節電（消灯時間を30分早める）・文化祭での他学年，保護者へ取組内容の発信	
福岡市立城西中学校（福岡県）		参加生徒数212名
<p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none">・マイ箸持参・「エコチャンス」によるマイ箸使用のタイミングの共有（マイ箸を使用するタイミングを「エコチャンス」と名付け，事前の説明会で実践を呼び掛け）	<p>マイ箸使用の様子</p>  <p>事前の説明会での呼び掛け</p> 	

田川市立田川中学校（福岡県）

参加生徒数 48名



宣言書の読上げ

エコバッグ
贈呈式



<取組内容>

- ・ 修学旅行中のごみ分別
- ・ 宣言書の読上げ，エコバッグ贈呈式による意識の高揚

岡崎市立山中小学校（愛知県）

参加児童数 44名

<取組内容>

- ・ 班別分散学習中のごみ拾い，宿泊先でのごみの分別
- ・ 食べ残しを減らすための試食の自粛



班別学習中のごみ拾い

刈谷市立住吉小学校（愛知県）

参加児童数 87名



作成されたハガキ新聞

<取組内容>

- ・ 修学旅行中のエコ活動をまとめたハガキ新聞（エコハガキ新聞）の作成による全校児童への情報発信